

獨協大学 SDGs 報告書 2022



獨協大学 SDGs 報
「埼玉県SDGsパートナー
県内の大学として初

日本語
JAPANESE

人材育成

実践的な
独立した人格

SDGs

学長メッセージ

誰もが平等な教育研究の機会が与えられ、
その人権が擁護され、人として成長できる場の創造を目指して

獨協大学 学長 山路朝彦



本学は、埼玉県内の大学として初めて「埼玉県SDGsパートナー」への登録(2021年3月)を行ったことを機に、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット達成に向けた教育・研究を推進していくこととしました。

2022年3月には、「獨協大学SDGs行動指針」を策定しました。これは、学則第1条にある「外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」という理念に基づいたSDGsの達成を担う人材育成を宣言するとともに、大学としてSDGsにどのような視点で取り組むのかを明文化したものです。具体的には、①本学構成員がSDGs達成に向けた意識と認識を共有し、②持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現すること、③関係機関とパートナーシップを形成し、地球規模の課題に取り組むこと、④地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組むことを掲げています。

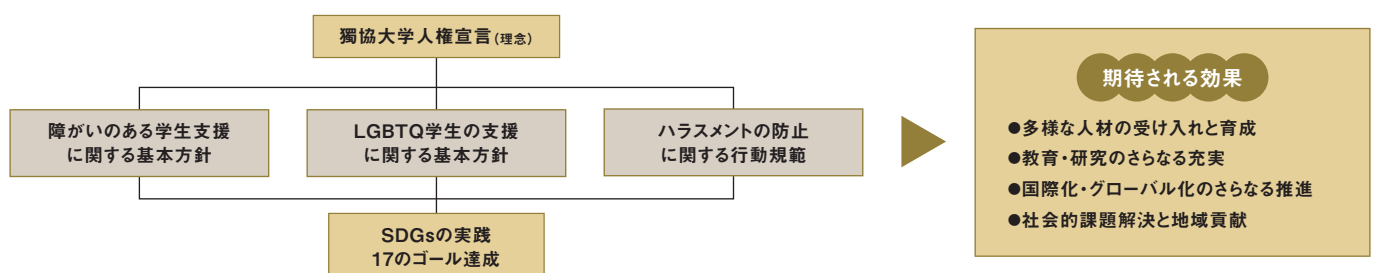
2022年度は「獨協大学人権宣言」に基づき、「人権」に関する取り組みを推し進めてまいりました。

「障がいのある学生支援」においては、支援を受ける側・支援を行う側の両方から学期終了ごとに実態調査を行い、支援方法の見直しや改善を図りました。さらに、2023年2月には、障がいのある学生の支援、教職員・周囲の学生への啓発活動を行う専門部署「学生支援室」を新設しました。また、「LGBTQ学生の支援」については、全学生を対象とする実態調査を行い、大学として何ができるのかを検討してまいりました。

国際問題に視点を転じると、未だ終わりの見えない戦争が続いています。そのような国際問題への取り組みのひとつとして、2022年6月には、キウ国立言語大学と協定を締結し、戦禍にある学生が安全に教育を受けられるよう、秋学期よりウクライナ学生を受け入れました。

SDGsの根本理念にある「誰一人取り残さない」という社会の根源的な課題に取り組むことは、誰もが平等な教育研究の機会が与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを念頭に進められています。すなわち、本学の使命はSDGsの達成を担う「実践的な独立の人格」を育成し、社会の発展に寄与することであり、SDGsの目標達成について今後も検証してまいります。

【本学におけるSDGs推進のイメージと期待される効果】



獨協大学SDGs行動指針

獨協大学は、学則第1条「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」の理念の下、社会の発展に寄与するSDGsの達成を担う人材を育成します。

1. 本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と認識の共有

獨協大学は、学内構成員ひとりひとりがSDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考える環境を提供してSDGs啓発活動に取り組みます。

2. 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

獨協大学は、「獨協大学人権宣言」に基づき、「誰一人取り残さない」社会実現の一翼を担うべく、人権が擁護され、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、人として成長できる場を創造します。また、多様な人材が輝きをもって活躍できるよう「ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(包摂性)の推進」に取り組みます。

3. 地球規模の課題への取り組み

獨協大学は、温室効果ガス削減、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、社会の平和と公正を含むSDGsの達成に、関係機関とパートナーシップを形成して取り組みます。

4. 地域の課題への取り組み

獨協大学は、地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組みます。

2022年3月 獨協大学

獨協大学人権宣言

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を実現するために、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言します。

1. 獨協大学は、国や地域の法令、建学の理念、学則などの規範を遵守します。

2. 獨協大学は、すべての人間は生まれながらにして平等であるとの認識に立ち、人権を擁護し、多様性を尊重します。学生、教職員、その他関係者は、互いの尊厳を守ります。

3. 獨協大学は、国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などによる偏見や差別を許しません。人間の尊厳を損なう行為を決して放置せず、健全な教育研究環境と職場環境の整備を加速させます。

4. 獨協大学は、学生、教職員、その他関係者が持つ多様性が創造的な教育研究成果を生み出す体制を整備します。

5. 獨協大学は、地域との連携を深めながら、誰もが互いに人格と個性を認め合い、支え合う共生社会の構築に貢献します。

2020年8月15日 獨協大学

獨協大学環境宣言

私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

- ◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
- ◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
- ◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月 獨協大学

持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて

LGBTQの学生、障がいのある学生の支援や、
多様な教職員が活躍できる働きやすい環境づくり

LGBTQ学生の支援



「ジェンダーとセクシュアリティについての
ハンドブック Ver.1」

LGBTQは11人に1人*とされています。本学は、2021年4月発表の「獨協大学におけるLGBTQの学生の支援に関する基本方針」に基づき、2022年6月、LGBTQ学生の支援および多様性を尊重する大学の環境整備を目的として、「獨協大学ダイバーシティ推進連絡会」を設置しました。7月には本学におけるジェンダーやLGBTQに対する現状とニーズを把握するためにアンケートを実施し、全学生の4.1%にあたる337人から回答を得ました。このアンケート調査で得られた情報や要望を取り入れて編集した「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブック Ver.1」を12月4日～10日の人権週間に合わせて発行、学生と教職員に配布しました。ハンドブックには、本学のサポート体制やジェンダーとセクシュアリティに関する用語などを掲載しています。

また、12月20日には早稲田大学スチューデントダイバーシティセンターのGSセンターから講師を迎え、教職員向けのセミナー「LGBTQ+学生への対応の基本とキャリア支援」を開催しました。今後も教職員および学生への啓発活動を続け、相談体制の整備を進めます。

*電通ダイバーシティラボ(2021)「LGBTQ+調査2020」による。

障がいのある学生の支援

2021年4月発表の「獨協大学における障がいのある学生の支援に関する基本方針」に基づき、障がいのある学生を組織横断的に支援するための体制整備・運営を目的とする「学生支援連絡会」は、同年12月より支援申請の受け付けを開始しました。これまでに同連絡会が支援を行った学生は約50名です。各学期末には、支援を受けた学生、支援を行った教員の両方にアンケートを実施し、よりよい支援につなぐことができるよう、現状把握とフィードバックを行っています。

2023年2月には、障がいのある学生の支援、教職員・周囲の学生への啓発活動を行う専門部署「学生支援室」を新設。関係部署と連携しながら、より学生に寄り添った支援を行うとともに、ボランティア学生の組織などの活動を予定しています。

また、同年2月、カウンセリング・センターが「教職員のための学生サポートハンドブック 改訂版」を発行し、全教職員に配布しました。このハンドブックには、学生支援の基本姿勢や発達障がい・精神障がいなどの症状についての説明、学生対応の事例などを掲載しています。



「教職員のための
学生サポートハンドブック 改訂版」

階段避難車の使用講習会を実施

本学は、すべての教室棟に階段避難車イーバックチェアを1台ずつ設置しています。階段避難車とは、災害時に停電等でエレベーターが使用できなくなった際、階段を下りることが困難な方の避難を支援する防災備品です。2022年6月に実施した階段避難車の使用講習会には職員30名が参加し、組み立て方や使用方法を学んだ後、実際に人を乗せて階段を下ろす練習をしました。

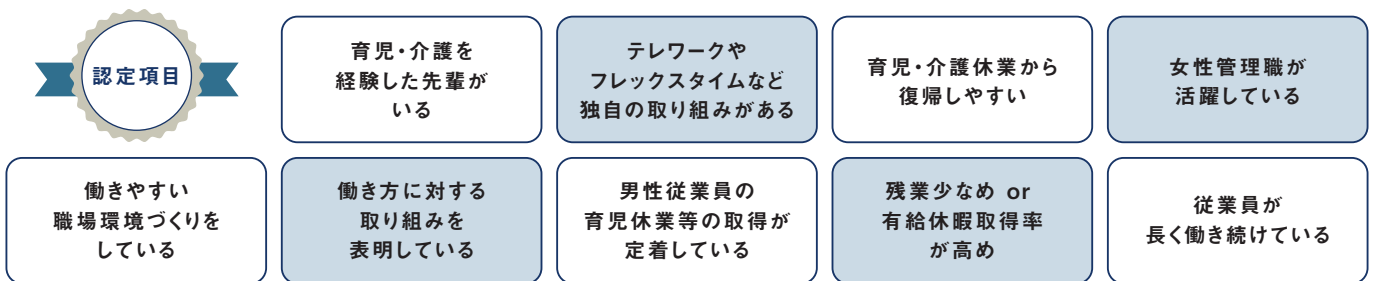


階段避難車の使用講習会の様子

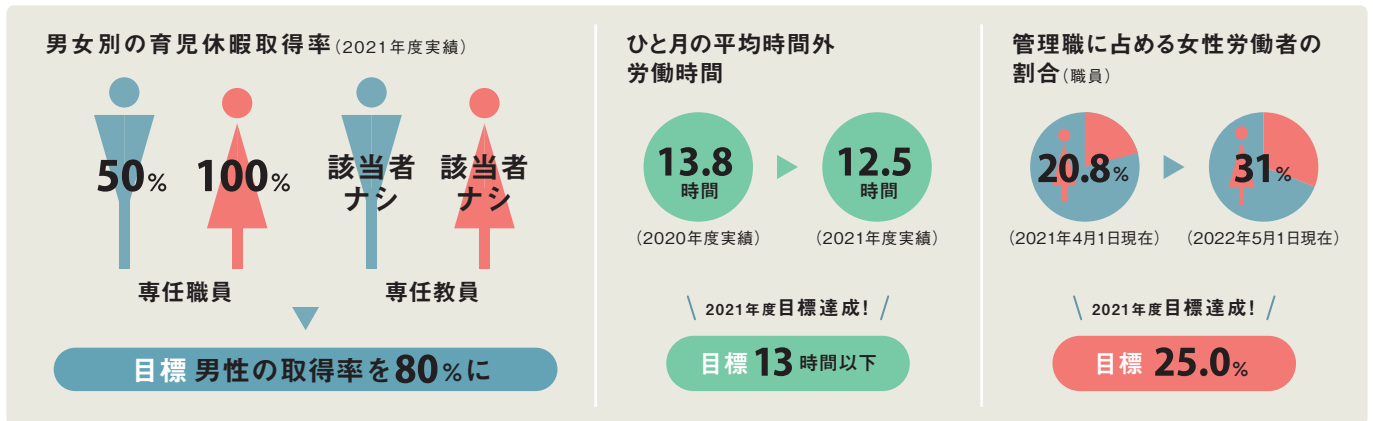
多様な働き方実践企業「プラチナ認定」

本学は、様々なバックグラウンドを持った837名(男性501名・女性336名)の教職員が働いており、ともに活躍できる環境づくりを推進しています。法令より優遇された育児休業制度や介護休業制度を整備するとともに、教職員の啓発に努めることで、ライフステージと仕事の両立を支援してきました。また、女性管理職比率や1か月の時間外勤務時間数削減においても目標値を達成し、働き方改革は着実に成果を上げています。こういった取り組みの成果として、2022年は埼玉県が多様な働き方実践企業認定「プラチナ認定」(下図9項目の全項目をクリア)を獲得しました。今後も、教職員のニーズの把握に努めるとともに、介護休業の増加など社会の変化を先取りした制度を整備しながら、多様な方々が働きやすく、多彩な人財獲得につながる職場づくりに取り組んでいきます。

埼玉県が推進する「多様な働き方実践企業」



プラチナ認定獲得時の本学の実績と今後の目標



障がい者雇用

本学は、誰もが働きやすく活躍できる職場環境づくりの一環として、障がいのある方々の採用を行っています。2022年4月からは、学内での清掃業務に障がい者3名・サポーター1名の計4名が加わりました。職員が持ち回りで朝礼や終礼をフォローするなど信頼関係を構築したことで、継続的な就労につながっています。障がいのある方々がキャンパスで働いていることが当たり前になっていくことで、教職員による障がいのある学生支援の輪も広がっていくと考えています。



学内での清掃作業に従事する障がい者とサポーター

本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と 認識の共有



他大学や地域社会との連携を通じて、SDGs達成に貢献する人材を育成

SDGsをテーマに宇都宮大学と本学法学部鈴木ゼミがワークショップを開催

SDGsが国連総会において2015年9月25日に採択されたことを受け、毎年9月に世界中の様々な団体がSDGsのために行動するキャンペーン「#Act4SDGs」が展開されています。2022年は、「気候」「正義」「平和」を主要なテーマとして、9月16日から25日の間に実施されました。

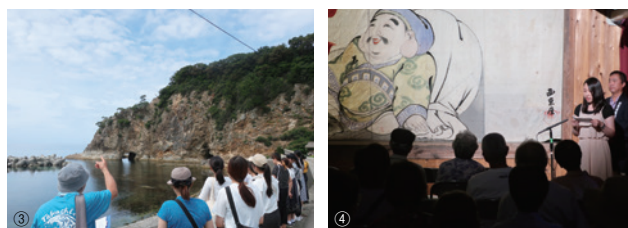
本学では「#Act4SDGs」キャンペーンの一環として、宇都宮大学国際学部の藤井広重ゼミと本学法学部の鈴木淳一ゼミの学生が、本学にて平和の実現を目指すワークショップを開催しました。国際協力の実務を想定した課題に、大学混成チームで取り組むワークショップを通じて学生たちは互いに協力し合いながら国際問題の解決を目指す経験をしました。



ワークショップに参加した学生たち

新潟県佐渡市における地域との連携活動

外国語学部交流文化学科の鈴木涼太郎ゼミで観光を学ぶ学生たちが、2015年より佐渡市達者地区で地域連携活動を行っています。フィールド調査を通じて観光と地域社会の関係を学ぶ一方、集落の子どもたちに英語を教えたり、お祭りに在学学生や卒業生が参加したりするなどの交流に取り組んでいます。また、世界的太鼓芸能集団・鼓童によるイベント「アースセレブレーション」では、海外からの観光客に歌舞伎や鬼太鼓など佐渡の芸能を英語で紹介したこともありました。このような活動を通じて地域に賑わいを創出するとともに、民俗芸能の伝承と魅力発信のお手伝いをしています。



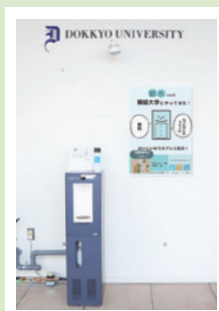
- ① 達者祭りのお手伝い
- ② 子どもたちへの英語教室
- ③ 地域の方をガイドに集落を調査
- ④ アースセレブレーションで佐渡の歌舞伎を紹介

給水器設置によるペットボトル削減

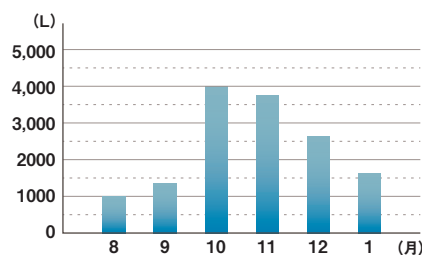
2022年8月、プラスチック（ペットボトル）削減を目的に、学内に給水器を2台設置しました。

2023年1月末までの半年間で12,300L（リットル）を給水しており、500mLペットボトル24,600本分を削減した計算になります。

24,600本分
削減



■ 給水量の推移（2022年8月～2023年1月）



地球規模の課題・地域の課題への取り組み



気候変動防止に向けたキャンパスCO₂排出量の削減や、地域の活性化に向けた取り組みを展開

「獨協大学コミュニティスクエア」がオープン

2023年4月、本学北側の新たな敷地に、学生や教職員の地域交流をコンセプトとした自由度の高い第二のキャンパス「獨協大学コミュニティスクエア」がオープンします。この建物は、太陽光発電システム、自然換気、高断熱、昼光利用、日射遮などの省エネ技術を取り込んだゼロエミッション建築物で、国土交通省「サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)」の補助金事業に採択されています。同時期に、草加市立松原児童青少年交流センター「miraton(ミラトン)」や東武鉄道株式会社の商業施設「TOBU icourt(トーブイコート)」も完成したことから、獨協大学前(草加松原)駅西口周辺の地域活性化が期待されています。



エントランス

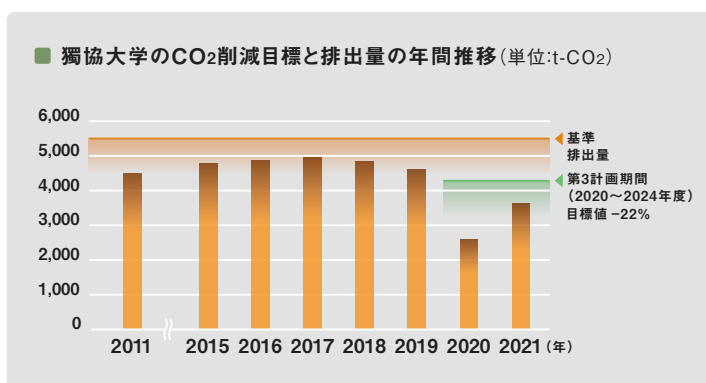


外観

自然エネルギーの活用とPDCAによる省エネ活動

2007年に竣工した「天野貞祐記念館」以降、本学は太陽光発電システムや地中熱利用などにより自然エネルギーを積極的に活用するとともに、学内の発電ネットワーク「キャンパス内マイクログリッド」を発展させ、CO₂排出量削減を推進してきました。

埼玉県地球温暖化対策計画制度においては、第1計画期間(2011~2014年度)の8%削減、第2計画期間(2015~2019年度)の15%削減の目標を達成(第2計画期間は第1計画期間のクレジットを充填)しています。第3計画期間(2020~2024年)のうち、2020年度および2021年度では、コロナ禍による遠隔授業の影響で大幅に削減できましたが、今後はコロナ禍以前の状態に戻り、CO₂排出量が急増することが懸念され、更なる努力が必要と考えています。本学の「省エネルギー推進に関する専門部会」では、学生・教職員の省エネ活動、省エネ改修、コンサルタントとの省エネ改善計画やPDCAサイクルを用いた省エネ改善など、第3計画期間の22%削減目標の達成に向けて取り組みを強化しています。



※電気の排出係数=0.495で計算 ※基準排出量は2004~2006年度の3年間平均値

学生や教職員のアイデアによる省エネ活動

獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2022」では、夏期は6月27日~7月1日、冬期は例年より期間を拡大して12月12日~1月23日の間、学生の発案による「全学ライトダウンプロジェクト」を実施しました。これは学生と教職員が一丸となって、昼休みの時間帯、使用していない教室のエアコンの停止、教室および廊下等の消灯により省エネを図る取り組みです。夏期は418kWH、冬期は625kWHの電力削減に成功しました。

2022年度 おもなSDGs活動一覧

3月

- 3月
「獨協大学SDGs行動指針」を策定 [p2参照](#)
- 3月1日～13日
草加マルイの「SDGs WEEKS in草加マルイ」で、経済学部高安ゼミのSDGsへの取り組みを紹介(パネル展示)

4月

- 4月
埼玉県SDGsパートナー登録に対する3側面(環境・社会・経済)の進捗を報告

5月

- 5月2日
「こども食堂」の運営団体「こども応援団マイカ」を支援する自動販売機を10台設置(2023年1月までに356,723円を寄付)
- 5月14日
「日経SDGs Festival 大学SDGsカンファレンス」に岡垣知子副学長・SDGs推進連絡会会長と、経済学部国際環境経済学科の米山昌幸教授が登場 [表紙写真①](#)
- 5月17日・19日
～食べて高める防災意識 第1回～防災備蓄食を使った「防災カレー」を提供(以降、防災コラボメニューの提供を計7回実施) [表紙写真②](#)



5月2日



6月1日

6月

- 6月1日
埼玉県 多様な働き方実践企業認定制度で「プラチナ」認定 [p4参照](#)
- 6月8日
障がい学生支援を行う学生支援連絡会主催による階段避難車の使用講習会を実施 [p3参照](#)
- 6月27日～7月1日
獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2022～Summer～」を開催
期間中、学生の発案による「全学ライトダウンプロジェクト」を実施 [p6参照](#)
- 6月28日
地域ボランティアを行っている本学愛好会のWAP(We are places)が
埼玉県赤十字血液センターと合同で第1回献血活動を実施(以降、計2回実施) [表紙写真③](#)
- 6月29日
国際環境経済学科・環境共生研究所主催による講演・討論会
「第8回フクシマの未来を考える～学生のうちに知っておくべきこと～」を開催



6月29日

7月

- 7月16日
草加市内の小学5・6年生40名を対象に「子ども大学そうか」の入学式・第1回授業を実施(全5回の授業の内、第1回(7月16日)と第4回(10月15日)を本学の教員が担当しました) [表紙写真④](#)

8月

- 8月
・プラスチック(ペットボトル)削減を目的に学内に給水器を2台設置 [p5参照](#)
・草加マルイ30周年企画「楽しくSDGsを体験!」で、本学のSDGsの取り組みを紹介 [表紙写真⑤](#)



10月19日

9月

- 9月17日
SDGsをテーマに宇都宮大学と法学部鈴木ゼミがワークショップを開催 [p5参照](#)

10月

- 10月19日
学生・教職員による防災訓練を実施

11月

- 11月
内閣府主催「地方創生☆制作アイデアコンテスト2022」で、経済学部国際環境経済学科米山ゼミ「復興知」メンバーが「東北経済産業局長賞」を受賞
- 11月5日
外務省主催「第38回国際問題プレゼンテーションコンテスト」で、法学部3年生のチームが奨励賞を受賞
- 同日
経済学部生による雄飛祭でのジェンダー平等推進活動がNHKニュース7で紹介
- 11月9日～14日
経済学部高安ゼミの学生が草加マルイにて埼玉伝統工芸品の展示・販売会を開催 [表紙写真⑥](#)

12月

- 12月
経済学部生が東武動物公園にて、生物多様性を子どもたちに学んでもらう目的でスタンプラリーブックを配布(12月6日、NHK首都圏ネットワークで学内から中継紹介) [表紙写真⑦](#)
- 12月5日
「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer.1」を発行 [p3参照](#)
- 12月12日～17日
獨協大学環境週間「Earth Week Dokkyo 2022～Winter～」を開催
12月12日～1月23日の間、「全学ライトダウンプロジェクト」を実施 [p6参照](#)
- 12月20日
教職員向けセミナー「LGBTQ+学生への対応の基本とキャリア支援」を開催

2月

- 2月
・障がいのある学生の支援等を行う専門部署「学生支援室」を新設 [p3参照](#)
・「教職員のための学生サポートハンドブック 改訂版」を発行 [p3参照](#)

表紙掲載写真



本学のSDGsへの取り組みの詳細については、高安健一SDGs推進連絡会アドバイザーによる「獨協大学におけるSDGs推進体制の構築(2019年12月～2022年4月)」と地域連携PBLの展開「獨協経済」(113号 2022年9月)をご参照ください。 ※PBL:Project Based Learning

